

たかがい恵美子



5月28日、ザ・プリンス パークタワー東京（東京都港区）において、平成22年度日本看護連盟通常総会につづき、総決起大会が開催されました。

組織代表であるたかがい恵美子さんは、約1800人の参加者の大きな拍手で迎えられ、壇上に上がりました。

来賓挨拶には、自民党の大島理森幹事長、町村信孝清和政策研究会会長、細田博之元内閣官房長官、武部勤元自民党幹事長がそれぞれ立たれました。挨拶された方々は異口同音に、政権交代の後もぶれることなかった看護連盟の姿勢に敬意を表され、自民党は絶対に参議院選挙に勝利すると熱く語られ、たかがいさんにエールを送りました。また、お忙しい合間をぬってお出でになった数多くの国会議員、関係団体の方々が来賓として紹介されました。

最近のたかがいさんの活動の模様を紹介するビデオ放映の後、たかがいさんが「人生（いのち）」をバンドをバックに熱唱しました。「人生（いのち）」は、たかがいさんが宮城県で保健師として活躍しているとき自ら作詞作曲した歌です。現在でも、地元では歌い継がれているそうです。この日のために、当時一緒に演奏していた仲間が上京し、20年ぶりの共演となりました。

つづいて、長野県看護連盟と長崎県看護



たかがいさんを激励する
中川正治参議院議員



武部元自民党幹事長と
たかがいさん



細田元内閣官房長官



町村清和研会長とたかがいさん



大島自民党幹事長とたかがいさん



たかがいさんを激励に駆けつけた
国会議員の方々



たかがいさんに花束を贈る
一龍斎貞花師匠



20年ぶりとは思えない息のあった共演「人生(いのち)」



お隣同士をつなぎましょうと、
たかがいさんが参加者に呼びか
けました



山口名誉会員



長崎県看護連盟の応援団



長野県看護連盟のチアリーダー



国政への窓口を一つつくってください、
と訴えるたかがいさん。



ガンバローコール

護連盟の有志による東西応援合戦が繰り広げられました。長野県看護連盟はチアリーダー、長崎県看護連盟は三三七拍子で会場を盛り上げました。応援合戦のあとに、元長崎県看護連盟会長の山口ミユキ名誉会長が登場。「選挙に向けて、とにかく頑張ろう」と参加者に呼びかけ、ますます会場が盛り上がりました。

そして、たかがいさんが挨拶。次の時代、社会を牽引するのは看護だと言っていただけに、看護の現場で感じていること、悩んでいることをしっかり伝えたい、政治の場に窓口を作らせてください、と参加者に訴えました。

最後に、石田昌宏日本看護連盟幹事長の音頭で、参加者全員が起ち上がり、最終ラウンドに向けてガンバローコールをあげ、決起大会を締めくくりました。

たかがい恵美子が
取り組んでいくこと

人の生きる力を守るプロとして いのちと暮らしを守り抜きます！

昨年、日本看護協会の総会終了後、たかがい恵美子さんは看護の代表として国政へ挑戦することを表明しました。組織代表に選出され、たかがいさんは、全国を巡り、今後つくるべき社会像を、看護像を訴えてきました。

たかがい恵美子の政治理念

「大事な、未来。つくりたい！」

「成熟社会・にほん」

国民一人ひとりが、楽しく・豊かに・堂々と暮らせる社会のことです。これからの少子高齢化は、働き手が減り人口が減る中で進展します。しかしたとえ人口構成や産業構造、そして時代が移り変わっても、生活者の願いは同じです。それは、居心地のいい街で、愛する人と、自分らしく生きていきたい・生き終えたいということ。いま求められているのは、ヒューマンケア中心の地域づくりなのです。この切ない希望をかなえることができるのは、人生（いのち）に寄り添う看護の技です。私たちの知恵と経験を駆使して社会の活きる力を高め、成熟社会を実現していきます。

「成熟社会・にほん」の実現

たかがい恵美子の姿勢

たかがい恵美子は次の姿勢を基本として努力し続けます。

1. 実感できる政治を実行するために、生活者の経験を一番に尊重します。
2. 透明性の高い政策づくりのために、つねにオープンに問いかけます。
3. 冷静かつ大胆に前進するために、困難に立ち向かう勇気を持ちます。

「りぶる」にたかがいさん登場

自民党の女性向け機関誌「りぶる」の6月号「BEAUTY WOMAN 美へのこだわり」のページにたかがいさんが登場しました。

資生堂のヘア・メイクアップアーティスト矢野裕子さんが手がけたメイクで、たかがいさんがインタビューを受けている模様が撮影されました。インタビューのなかで、たかがいさんは「看護職の女性の働き方が変わること、日本の女性の働き方が変わっていく可能性があります」「働く女性の現場の声を国政にダイレクトに届けたい」と語っています。

「りぶる」に掲載されている花柄のジャケット姿の他にも、白いカジュアルなジャケット姿、淡いブルーのナース服姿でも写真が撮影されました。ふだんとちょっと違った雰囲気なたかがいさんです。



看護協会の総会終了後に、国政へ
チャレンジすることを出席者に報告



自民党青年局と婦人局は「JIMIN NEXT」というキャラバン隊を結成し、全国を遊説しています。たかがい恵美子さんも、宇都宮、金沢、浅草の街頭演説会に参加。演説を聴きに集まった方々に向け、今後ますます高齢化が進むなかで、よりよい社会づくりを進めていくために看護が大きな役割をはたすと訴えました。



宇都宮で街頭演説



金沢での街頭演説



浅草での街頭演説は雨の中行われました

たかがい恵美子に取り組む3つの重点課題

たかがい恵美子のめざす、新しい社会とは。

楽しく、豊かに、堂々と暮らせる「成熟社会・にほん」となるために。

1. 健康を増進し、福祉を充実させます。

○子を産みたいと思い、安心して育てることのできる社会環境づくりを進めます。

家族・地域が支えあう育児・介護制度の実現
良質な保育、学童保育の充実
児童虐待防止対策の充実

○自らの健康に興味を持ち、生活の楽しさを実感できる地域づくりを進めます。

生涯健康づくりの推進
世代間コミュニケーションの促進

○納得して人生を全うできる確かな社会保障づくりを進めます。

認知症の早期発見と重度化対応の推進
多様な看取りの場の確保と十分な看取りケアの実現
元気高齢者の生活支援の充実
障がい者が安全で安心して生活できる制度・環境の整備・促進



自由民主党の公認を受け、記者会見に臨むたかがいさん。
清水日本看護連盟会長が応援演説を行う。



昨年の日本看護連盟の総会で組織代表に選出された。

2. 安心して安全に働ける社会をめざします。

○生涯を通じて経済活動に参加できる労働環境づくりを進めます。

医療・看護・介護従事者、保育士等の処遇改善
ワークライフバランスの促進
働き続けられる職場づくりの促進

○豊かな食文化のための環境づくりを進めます。

食育推進運動の実践と推進
食品安全支援策の充実

○国際社会でより多くの人材が活躍できる環境づくりを進めます。

国際協力・支援の重視
科学技術やものづくりの支援



看護の道を目指してから、臨床の場で、地域で、研究の場で、
また厚生労働省で、活躍を続けてきたたかがいさん。

3. おもしろいと感謝の心を育む教育と環境をつくります。

○思考、情操、発想、創造性を豊かにする教育体系づくりを進めます。

日本の伝統・文化を尊重する教育の実施
家庭で生かせる環境教育の重視
日本の文化・自然を国内外に広く発信

○安全で質の高い医療提供ができる人材育成を進めます。

看護基礎教育の高等教育一元化
卒後臨床教育の実施
計画的な人材確保対策の促進
高度専門的な技術分野の重視

○自然と共生し、いのち・暮らしに優しい環境・社会づくりを進めます。

低炭素社会づくりの実施と推進
自然を大切にすることの育成



全国を精力的に回り、現場の声を聴き、
次の社会づくりには看護の力が欠かせないと言われるようにしたいと訴える、
たかがいさん。

たかがい恵美子に取り組む 看護の重点課題

看護職が、楽しく・豊かに・堂々と、
国民の健康福祉に貢献するために
下記を重点課題として取り組みます。

1. 働く看護職の出産・子育て支援についての体系的な整備を求めます。
2. 看護職・介護職のキャリアを適切に評価する処遇の実現を求めます。
3. 技術の高度化に伴う身分保障・賠償等社会的基盤の整備を求めます。
4. 170万死時代を支えるナースিংホームの制度的実現を求めます。
5. 認知症の早期発見及び重度化対応のための対策と体制整備を求めます。
6. 利用者の視点から、無理・無駄・切れ目のない医療の実現を求めます。
7. ワークライフバランスを実現し働き続けられる職場づくりを求めます。
8. 第一線で培われた新たな看護技術についての適切な評価を求めます。
9. 看護基礎教育の高等教育一元化と卒後臨床教育の実現を求めます。
10. 看護・介護人材の計画的な育成並びに確保対策の促進を求めます。
11. 育成・就業・研究が連動する看護の技術革新の拠点整備を求めます。
12. 高度専門的な看護技術の研究開発の促進とその普及を求めます。
13. 看護の専門的な視点で、安定した社会保障制度の再構築を提案します。

キラッと光るたかがい発言

著書「ナイチンゲール・スピリットで行こう。」から。

日本の急性期医療を 見直すべき

・医療機関への収容に偏重してきた日本の医療提供体制を真摯に見直し、そもそもの入院加療とは何かを改めて整理すること、10年後20年後の日本、これからの人口構成と国民ニーズにあう安全かつ確実な医療提供体制をしっかりと再編成することが今、急務

尊厳ある死を迎えることのできる 多様な看取りの場を 整えていくこと

・もっと地域に開かれた柔軟な利用ができる老人保健施設、必要なときに確実に利用できる訪問診療と訪問看護などを整えること。
・これらのサービスを24時間しっかりとつなぐ機能を置くこと。同時に、それらがつつがなく動くための所定のルールを決め、複数の職種が上手に役割分担しながらチームで動けるようにすること。

・ご本人と家族がどんなサービスを利用して、自分たちらしい暮らしが分断されないようにすること

看護師が 病院と地域を連携する

・看護師が責任を持って退院調整の機能を担うことで、大きな病院のケア担当者とな小さな在宅ケア機関とが顔と顔でつながるようになる。

社会保障制度を第一線で支え、 医療費増大を抑制する 原動力である 看護職の底力を知ってほしい

・しかし、看護職の育成の場は厳しい状況にある。看護師不足によって、日本の社会保障は地滑りを起こすことにもなりかねない。その岐路に、日本は立っている。

昨年、組織代表に選出されてから、たかがい恵美子さんは精力的に全国各地を巡り、現場の声に耳を傾け、集会に集まった人々と意見交換し、今後の社会づくりにおいて看護の力が必要であることを訴えてきました。全国巡りもすでに3巡目、ホップ・ステップ・ジャンプのジャンプに入りました。



沖縄でのジャンプ活動



山梨でのジャンプ活動

4月18日横浜のマリオットホテルで、神奈川県看護連盟主催のボリナビワークショップならびに集会が開かれ、たかがい恵美子さん、小泉進次郎衆議院議員、さかもと未明さんがゲストで招かれました。

ボリナビワークショップでは、矢込さんと中野さんが自らの生い立ちを振り返り、現在の仕事がかかっている状況、若手看護師が制度・政治に関心をもつ重要性を語りました。

つづいて、小泉議員のとたかがいさんが入場され、それぞれが講演されました。この後、大島敏子日本看護連盟監事が講演。

そして、さかもと未明さんが登場。ピアノの伴奏で3曲を歌った後、たかがいさんも一緒に人生(いのち)を歌いました。



ボリナビワークショップのメンバー。中央の2人が発表。



小泉進次郎
衆議院議員



たかがいさんの
講演



大島監事の講演



さかもと未明さんと一緒に人生(いのち)を歌うたかがいさんと参加者



さかもと未明さん

これからの社会・時代に必要なものを看護職が持っている！

これから日本社会が迎える20年は、これまでの20年と明らかに違います。いま私たちは、誰も経験したこのない時代に突入しつつあります。人口が減り、働き手が減るなかで、高齢化が進んでいきます。今年生まれた子どもが高校生になる頃には、国民の3人に1人が65歳以上となっています。そんな時代に、どのような社会を用意しなければならぬか。

いのちのそばで常に生きる力を支えている看護職は、すでに気づいています。増加する認知症高齢者の様々な問題への対応の遅れなど、医療・看護の現場で起こっていること、悩んでいること、こうなりたいと願っていること、その中に、未来にむけて整えていくべき社会保障のしくみが芽生えています。

だからこそ、たかがい恵美子さんは、看護職がもつ知恵と技術を社会に伝え、人を大切にする社会、働くことを楽しめ、と思える社会、明日に希望が持てる社会、そんな社会づくりのために、是非働きたいと考えています。

「清く正しく美しく」ではなく
「清く正しく遅しく！」

- ・診療報酬を知ろう！
- ・自分たちの技術が、社会サービスとしてのどのような名目で、どのように規定され、どのように評価されているのかを、少なくとも熟知しておくべき。
- ・ご奉仕ではなく、労働の対価としての適正な報酬を

看護外来の拡大を

- ・継続的な看護ケアを必要とする人に対しての取り組み
- ・看護師本来の持ち味を存分に発揮しながら効率よく療養を支えていくことができる
- ・地域に密着した新たな看護サービスの充実につながる

臨床能力を高める場の設立

- ・資格取得後、一定期間を設けて最低限の臨床能力を身につけることを制度的に整えることが、看護基礎教育改革と併せて必要

もつと自由な就業スタイルへ

- ・130万人を超える看護の労働力が協力して、子育て世代の雇いを改善しよう。そうすれば結果的に男性の働き方も変化し、社会参加の多様な道が開けるだろう
- ・子育て世代で雇われるのは、「今が引き際」と思い込んでさっさと退職を決める。同じ医療職である女性医師にはこのような現象は見られず、キャリアを生かせる働き方にシフトしている
- ・働く看護職の6割が既婚、8割以上が子育てしている。もう一息！
- ・「しばらくは半分のパワーで仕事を続けましょう、お互い様なんだから」という同僚の声で支えられる環境をつくってほしい

現場を科学せよ！

- ・研究者は実践からの理論化だけでなく、それを制度化するまでの役割を担っている。

看護師はオーナーであれ

- ・看護職は「看護技術という付加価値を持つ一つのブランド集団」
- ・オーナーになるという感覚がないゆえ、自分の仕事をお金に換算するという発想も希薄
- ・看護職は社会保障の担い手であるという自覚と、その責務をまっとうするためにはお金がかかるという事実を認識すること
- ・自分の技術がどう評価され、評価を高めるにはどう展開していかなければいけないのかを、第一線の現場から日々学び取り、実践すること
- ・より高い水準の看護技術を社会に還元していく立場にあること

「前向き3K」への発想転換

- ・看護師不足が深刻とされた頃に言われた「きつい、きたない、きびしい」から「賢く、健康的で、確実に仕事する」の「前向き3K」への転換
- ・楽に、美しく、簡単にできる仕事なんて世の中にはない。それが現実社会の姿。プラス思考で物事を処理してこう。



たかがいさんの看護への思い、今後の社会づくりにたいする考えをまとめた著書「ナイチンゲール・スピリットで行こう。」